

第7回京都市山科地域公共交通会議 摘録

日 時：令和6年9月9日（月）午前10時～午前11時半
場 所：京都市山科区役所 2階 大会議室
出席者：別紙出席者名簿のとおり

1 開会

○ 事務局（会議の諸注意および配布資料の確認）

2 議題

(1) 京阪バスのダイヤ改正及び運賃改定

○ 山本委員（京阪バス）

（資料1に基づき、「京阪バスのダイヤ改正及び運賃改定」について説明）

当社も運転士不足が深刻化し、昨年度以降、京阪バス全体でバス路線の廃止・減便を実施してきた。山科地域においても本年5月27日には緊急減便を実施し、皆様に多大な御迷惑をお掛けしている。10月のダイヤ改正については、緊急減便の前のダイヤをベースに実施し、緊急減便前と比較して約90便の減便、走行距離は約10%減となる見込み。

今回のダイヤ改正のポイントは2点。1点目は、運転士不足や改善基準告示への対応として、早朝深夜帯の減便や経路変更を行うことで仕事量を減らすこと。2点目は、地下鉄と輸送区間が重複している路線について、運行経路の効率化を図ること。（以後、見直し対象の路線等について説明）実施日は10月6日、お客様への告示日は9月20日頃を予定している。

運賃改定については、8月22日に近畿運輸局に申請を行った。京都、大阪、滋賀の全エリアで改定を実施。改定理由については大きく3点。1点目は、燃料費などの物価高騰への対応。2点目は、車両や各種システムの更新への投資。3点目が一番重要であるが、運転士の確保のための処遇改善。京都エリアでの運賃改定は、消費税増税を除くと平成7年以来29年振りとなる。（以後、運賃改定の概要について説明）御利用の皆様には、ダイヤ改正後、2箇月も経過しないタイミングでの運賃改定となり、御負担をお掛けするが御理解賜りたい。

全国的にも大型2種免許保有者数は右肩下がりとなっている。2020年には、39歳以下の保有者は全体の約5%となっており、大型2種免許保有者の採用は困難を極めている。当社の運転士の在籍者数も減少の一途をたどっている。2016年度末から2024年度7月末にかけて約15%減少。平均年齢も約5歳上がり、毎年、定年退職者が増える見込みで大変厳しい状況。直近の採用状況であるが、今年4月に初任給を上げるなど待遇改善した成果もあるのか、4月～7月で46名の応募があり、昨年度1年間の応募者数を上回っている状況。しかし、多くが大型2種免許を保有していないため、採用後、育成するのに時間を要する。また、教習中に山科区の道路事情による運転の困難さから退職する人もおり、採用・定着は難しい状況が続いている。

○ 玉木委員（小金塚自治連合会）

2点、伺いたい。

1点目、醍醐バスターミナルから清閑寺山ノ内町については、250円から230円になるということだが、2区から1区に変更するということか。

2点目、山科区は京都市の一部であるにも関わらず、東山トンネルを越えて市内中心地に向かうバス路線については運賃が上がるということは不合理であると感じるが、いかがか。

○ 山本委員（京阪バス）

御指摘のとおり、醍醐バスターミナルから清閑寺山ノ内町については、今回、運賃が値下がりになる。当社の運賃制度は従来から、均一区間ではなく、距離に応じた区界ごとの運賃となっており、これまで区界ごとに改定を実施してきた。今回は、地下鉄との接続等を念頭に置き、複雑な運賃制度をなるべくシンプルにするという方針の下、決定した。当社の運賃制度の区界の境に位置している清閑寺山ノ内町については、同じ山科・醍醐地域ということで230円とさせていただいた。

山科地域と市内中心部とを結ぶバス路線の運賃が上がるという御指摘であるが、当社の運賃についても国に認可されたもの。設定された運賃によりこれまで当社の収支を支えていること、また、今回、一部の区間においては思い切った値下げを予定していることから、御理解いただきたい。

(2) 地域における取組

○ 玉木委員（小金塚自治連合会）

小金塚地域循環バスは、令和4年4月に、京阪バスの小金塚循環路線を引き継ぐ形で運行をスタートした。当初、ボランティアのスタッフ81名だったが、現在は75名。そのうち、運転士は29名であり、70歳以上は16名と半数以上を占めている状況。会員数は、当初304名であったが、現在は252名に減少。会員制とし、年間の会員券を購入いただいた方に御利用いただいている。当初、将来お世話になるかもしれない、あるいは、寄付のつもりで加入いただいていた方もいるようで、実際の利用者は少ない印象だったが、運行開始から2年経過し、そういった方が退会されたことにより会員数が減ったと思われる。

令和5年度の利用者は、月平均は約1,500人、一日平均は75.8人、一便平均は4.8人であった。今年度は、京阪バスの緊急減便により、小金塚地域循環バスも6月から最終便を減便せざるを得ない状況となっているが、全体の乗車数はそれほど減っておらず、他の便でカバーできていると考えている。今回の京阪バスのダイヤ改正は、緊急減便前に戻したうえで実施されるのとこととでありがたく思っている。

今年度から自家用有償旅客運送に移行し、6月からは、シルバー人材センターから、月曜日、火曜日の週2日、運転士を派遣いただいている。スタッフが

高齢化する中、できるだけ外部からの運転士により運営していきたいと考えている。運転以外にも、シフト作成や車両整備、安全性の確保、スタッフへの連絡など、大変な労力が必要であり、こうした運行をボランティアが担わなければいけないのはおかしい。なんとか行政に担ってほしいと考えており、現在の運行体系はあくまでも公共交通導入までの繋ぎだと考えている。

○ 事務局

(資料3-1、3-2に基づき、地域と連携したMM事業における利用促進の取組(鏡山循環バス、くるり山科、市バス特80系統)について説明)

○ 岩崎委員(鏡山学区自治連合会)

まずは、今回の京阪バスのダイヤ改正において鏡山循環バスを増便いただけることに感謝申し上げます。

MM活動として、これまでから年4回、利用状況調査を実施している。直近は9月1日～7日に実施。今回は、支払方法についても調査した。支払方法は、敬老パスや回数券のほかに、ICカード、現金があり、資料に掲載する敬老パス及び回数券での利用者以外は、ICカードまたは現金での利用と考えている。また、敬老パスには身体障害者手帳や定期券、回数券には敬老以外のものも含まれている点を御承知おきいただきたい。よって、敬老パス利用者が73.4%、回数券利用者が3.51%となっているが、敬老乗車証関係の利用実態は、合わせて全体の60%台だと考えている。負担金が上がったことにより敬老パスを使う利用者が減っているのではないかと。

さらに、敬老回数券は、薄い紙であり、高齢者にとっては紛失のリスクもある。普及しておらず、あまりにも利用が少ないことが分かったため、高齢者も利用しやすいように、ICカードにして残金が減っていくような近代的な仕組みにしてはどうか。公共交通の利用者の多くは高齢者。高齢者が利用しやすい仕組みを作っていただきたい。

○ 中嶋委員(西野学区自治連合会)

今回の京阪バスのダイヤ改定及び運賃改定については、総じて厳しい内容となっているが、鏡山循環バスの増便が実現するなど、一部、前向きな面も認められた。現状を踏まえ、京阪バスが私企業であることを考えると、仕方がない改正であると考えている。

山科地域は、主に京阪バスにバス交通を担っていただいているが、市民の足は最終的には行政が責任を持って確保すべきであると考えている。いよいよ行政の出番がきたと感じており、歩くまち京都推進室や交通局に対する期待が大きくなるとともに、その責任も大きくなっていると思う。利便性向上の取組強化に尽力いただきたい。これまでから要望していたが、今回の改定に当たって、事前説明いただいたことは非常に良かった。当事者間の相互理解と信頼関係向上につながったと思う。今後も引き続き、事前説明いただくようお願いしたい。

市バス特８０号系統については、現状、便数は少ないが、利用者数が増えてきている。今後、さらに利用者数増加に向けた取組を実施していかなければならないが、停車するバス停が限られていることがハードルとなっている。ぜひ、停車バス停の増加を検討いただくなど、運行者でも住民目線で利便性向上に取り組んでいただきたい。我々も、啓発など利用促進の取組を進めていく。

○ 児玉委員（京都市交通局）

山科区では、平成９年に地下鉄が開業し、路線バスの需要が大きく変わることが見込まれたこともあり、京阪バスが一元的にバス交通を担うこととなった。令和３年１２月からは、市バス特８０号系統が運行しているが、地域のバス交通を一元的に担う京阪バスとの調整により、現行の運行体系となっている。御意見いただいた点については、交通事業者間でも議論をさせていただきたい。

私も特８０号系統を何度か利用したことがある。以前に比べると利用者は増えているようだが、車内の状況はまだまだゆったりとご乗車いただける状況。今後、少しでも利用者が増えるよう願っている。地域の皆様も、バスや地下鉄といった公共交通を積極的に利用いただくような機運の醸成に御協力いただきたい。

○ 事務局

日本の公共交通は歴史的に事業として実施している経過があり、市交通局も含めて独自採算性が原則である。こうした中、現在、公共交通を取り巻く環境が厳しさを増しているが、いかに市民の足を守っていくかについて議論を重ね、昨年に「地域公共交通計画」を策定したが、計画においても、市民、交通事業者、行政がそれぞれの役割を果たすことが重要であると記載している。事業として採算が取れないような地域においては、これまでから、地域が主体となって、公共ライドシェアとも言われる自家用有償旅客運送といった運行体系を採用し、行政は、そういった地域の主体的な取組に対して最大限、支援してきた。このように、本市では、市民、交通事業者、行政の三者で市民の足を守ってきた。山科地域における住民の皆様の取組は、なかなかできることではないと思う。日々の運行やMM活動も大変だと聞いている。行政も、今年４月から支援制度を充実させたところであるが、引き続き、こうした住民の主体的な取組を全力でバックアップしたい。

御意見のあった敬老回数券については、御指摘のとおり利用率が非常に低い。保健福祉局でもアンケートを実施するなど、見直しに向けた検討がなされていると聞いている。これまでＩＣカード化の議論もなされているようだが、多額の経費が必要であることから、具体的な検討段階には至っていないと聞いている。回数券が地下鉄では使用できないこと、負担金の増額についての御意見も含めて、保健福祉局とも共有させていただく。

○ 玉木委員（小金塚自治連合会）

現状京都市の敬老乗車証は磁気カード、回数券は紙となっているが、大阪市や名古屋市、神戸市、高槻市でも多額の経費を投じて既にＩＣカード化している。なぜ京都市にできないのか。しかも、回数券では２２０円、２３０円などと細分化しており山科区民は地下鉄にも京阪京津線にも乗れない。伏見区では近鉄電車にも乗れない。こんな不合理なことはない。すべて１００円にすればよい。大阪市では１乗車５０円、名古屋市では路線バスもＪＲも名鉄も、市内の交通機関を乗り継ぎ含めて年間７３０回、乗車可能であるようだ。去年の京都市の一般会計は、８８億円の黒字であった。十分できるのではないか。真剣に考えていただきたい。

(3) 利用促進の取組

○ 事務局

（資料４に基づき、利用促進の取組について説明）

(4) その他

○ 中野委員（京都運輸支局）

小金塚地域循環バスについて、限られたスタッフ・運転手で運営されており、会員数も運営開始時から比べると減っている中、大変厳しい状況ではあるが、引き続き利用者の増加に取り組んでいただきたい。ボランティアでの努力もされている中、最終的に行政が担うまでの繋ぎであるとの話もあったが、昨今の厳しい情勢の中、現実的に運転士不足の状況が好転することは難しく、現状維持が関の山といったところであり、長い目で見て持続可能性を重視した現状の運営を続けていただくことが一つの在り方かと思う。

利用促進の取組の議題の中で、高齢者が使いやすいようにとの話があったが、それだけではなく、例えば、中学生・高校生といった毎日バスに乗って通学する人など、いろいろな方が利用して、みんなで公共交通を支えているという意識を持っていただくことも大事と考える。

○ 中嶋委員（西野学区自治連合会）

運転士不足における京阪バスの取組の中で、大型１種免許しか持たない人を大型２種免許取得まで支援するといった話があったが、京都市交通局では運転士確保の施策を行っているか。

○ 児玉委員（京都市交通局）

全国的な担い手確保の課題は京都市バスにおいても同様である。京都市交通局でも大型２種免許をお持ちでない方を対象にした募集も行っている。できるだけ多くの方にまずは応募いただきたいと考えている。

○ 谷口委員（山科区自治連合会連絡協議会会長会）

外環状線における地下鉄と京阪バスが重複している路線の見直しや、緊急減便前の4月時点に戻したうえでの調整については、個人的によかったと考えている。まだ課題は残っていると思うが、山科地区と醍醐地区を京都市の表玄関として良くしていくため、また、2年後に山科区が50周年を迎えることも踏まえ、公共交通の利用の増加に向け、今後とも皆さんの御協力をよろしくお願いしたい。

○ 井上委員（龍谷大学）

京阪バスにおける運転士の在籍者数や年齢層などの話を聞き、ダイヤの見直しの流れは今回だけで終わらないのではと感じる。その中でも、京阪バスにおいて、今年度の運転士の応募者数がすでに前年度を上回っているのは一つ光がさしているところ。しかしながら、応募者全員が運転士として採用されるわけではなく、一定の運転技術も必要であることから、他の業種とは異なり、人がいれば解決する問題ではなく、今後も継続した課題であると感じる。この点に関して、行政には今後もできる限りの運転士確保に向けた支援を継続してもらいたい。一方、鉄道会社においても、近い将来、同様の問題が出てくることが想定されるため、早めの検討をお願いしたい。

市民しんぶん区版への記事掲載という山科区の利用促進の取組は、他の区にも広がり、より多くの方に公共交通に関心をもってもらうきっかけになることを期待する。

○ 山本委員（京阪バス）※補足

運転士への応募者46人のうち採用は約1／3で、多くは大型2種免許を持たない方であり、途中で辞められる方もいるため、なかなか運転士が育ちにくい環境である。

○ 百瀬委員（京都市山科区役所）

各地域において、日々、持続的な公共交通の確保に御尽力いただいていることに改めて敬意を表したい。また、京阪バスにおいても、地域の切実な思いを真摯にくみ取っていただき、厳しい経営環境の中にありながらも対応いただいていることに、感謝申し上げる。先の発言にあったように、信頼関係がまさに重要であり、本会議を通じて、顔の見える関係で忌憚のない議論を行うことが大事である。区役所としても、公共交通の問題は、乗る人だけではなく、区民一人ひとりの問題であることを、引き続き、さまざまなかたちで啓発していきたい。また、個人的な発想ではあるが、地方では、バス・地下鉄を単なる移動手段ではなく、乗ること自体を楽しめるよう、キャラクターの活用や、昔の懐かしいバスの運行などの取組をされているところも見られ、そういった取組も将来的にできればと思う。公共交通は、出席いただいている各業界の皆様が一体となって守っていくものと考えます。新たな取組など、試行的なアイデアがあ

れば、ぜひ共有・連携をお願いしたい。区役所としてもできる限りの御協力をさせていただく。

○ 長尾委員（京都市都市計画局歩くまち京都推進室）

京都市には、この山科地域を含め、地域公共交通会議が6つある。それぞれの地域で課題は異なるが、今回、改めて各地域における取組により、地域の足を守っていただいていることに御礼申し上げる。行政として、市民の皆様の足を守っていくことは使命と考えており、そのためには、本会議に参集いただいた委員の皆様それぞれに役割を果たしていくことが重要と考える。例えば、まずは、地域の皆様には、バスなどの公共交通を利用していただきたい。そのためには、バス事業者は利用していただきやすい環境を整えることが大事。そして、我々行政は、そういった活動をしっかりと支え、それぞれの意見を聞きながら対応していかなければならないと考える。市政運営において、人口減少対策が最も重要な施策の一つである。会議の中で、高齢化社会を見据えたモビリティに関する発言があったが、当然、見据えていかなければならない課題である。一方で、高齢者だけではなく、若年層から支持される山科・醍醐地域であることも重要であり、現在、市内横断的な取組として、「meet us 山科・醍醐」プロジェクトを推進しているところ。こうした取組を含め、一人でも多くの方に公共交通を利用してもらえる機会を創出していきたい。各施策を実施するには経費も必要である。市の負担だけ難しい場合は、できる限り国の財源をいただけるよう働きかけていく。引き続き、使命感を持って進めてまいりたい。

○ 高橋会長（近畿大学）

交通事業における人手不足の課題はコロナ禍の前からあったが、全国的にダイヤ改正や減便がこれほど頻繁に行われるのは危機的な状況である。一般的には、バスのダイヤ改正は数年に一度、長い準備期間をかけて行われる。また、3月の鉄道のダイヤ改正に合わせて行われることもあると聞いている。しかし、それでは間に合わない状況に迫られているのが現状である。今回の京阪バスのダイヤ改正についても、これが最終形かどうかは分からない。そういった中でも、今回、鏡山循環バスの増便が実現したことは、本会議で議論を重ねてきた結果の一つである。交通事業者を取り巻く厳しい状況は続いており、運賃改定により一時的に収入増になったとしても、待遇改善はもちろん、働きやすい環境への投資が必要である。

山科地域については、地下鉄の開通以来、公共交通の仕組み全体を考える節目を迎えていると考える。地下鉄とバスの連携など、今後も議論すべき課題がある。引き続き、委員の皆様には御協力をお願いしたい。

3 閉会

第7回京都市山科地域公共交通会議 出席者名簿

(敬称略)

区分	役職名	氏名	備考
学識経験者	近畿大学経営学部 教授	高橋 愛典	会長
	龍谷大学文学部歴史学科日本史学専攻 教授	井上 学	
地方運輸局長が 指名する者	近畿運輸局京都運輸支局 首席運輸企画専門官	中野 幸太	
交通事業者	京阪バス株式会社経営戦略室 代表部長	山本 英幸	
	京都市交通局自動車部担当部長	児玉 宜治	
	京都市交通局高速鉄道部長	塩見 康裕	
交通事業者が 組織する団体	一般社団法人京都府バス協会 専務理事	竹内 哲也	
	一般社団法人京都府タクシー協会 専務理事	足立 高広	
住民	山科区自治連合会連絡協議会会長会 代表	谷口 勝 (山階南学区)	
	山科区自治連合会連絡協議会会長会 副代表	河内 正晴 (大宅学区)	御欠席
	鏡山学区自治連合会 会長	岩崎 泰大	
	西野学区自治連合会 会長	中嶋 恵二	
	小金塚自治連合会 会長	玉木 誠一	
	山科区地域女性連合会 副会長	奥田 末子	
労働組合	京阪バス労働組合書記長	朝田 雅也	御欠席
道路管理者	国土交通省近畿地方整備局京都国道事務所 事業対策官	今城 由貴	
	京都市建設局東部土木みどり事務所長	五井 雅人	
交通管理者	京都府山科警察署交通課長	松尾 伸一郎	
市長が指名する 者	京都市都市計画局歩くまち京都推進室長	長尾 由規夫	
	京都市山科区役所地域力推進室長（副区長）	百瀬 俊郎	

事務局

京都市都市計画局歩くまち京都推進室

京都市山科区役所地域力推進室